

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	映像リテラシーB2（音声基礎）	
科目基礎情報							
開設学科	放送芸術科		コース名		開設期	後期	
対象年次	1年次		科目区分	必修	時間数	30時間	
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	根岸 史人			実務経験の有無・職種	有・TV放送ミキサー・エンジニア		
学習目的							
この科目では、将来放送業界に進む学生にTV放送における音声業務の役割を理解してもらうことが狙いである。 日々進歩する技術に対応できるよう、音声技術の最低限の基礎・基本を身に着けるとともに、2年次に受験予定の「映像音響処理技術者資格認定試験」の音の分野を先行して学ぶ。							
学習目標							
この科目では、放送業界へ進む学生に対して、最低限の音声技術に関する基礎知識を身に付け、番組制作の過程で音に関することの準備・考えることが出来るようになることが目標である。 音の分野の視点から、業界全体の事を学び、自身の進む分野への活用方法を見出す。							
教育方法等							
授業概要	この授業 ではテキストを毎回配布、重要ポイントをテキストに書き込み、映像の視聴を交えながら、目で見えない音の表現を理解できるようにする。 音の分野に特化した映像だけでなく、他分野の特出的な演出映像も視聴し、興味・理解できるようにする。						
注意点	この授業ではキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。 ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	レポート	0%					
	成果発表 (口頭・実技)	0%					
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	TV音声スタッフの役割と仕事内容			映像制作における音声スタッフの役割。仕事内容を理解する。			
2回	音の基礎知識（音の三要素とデシベル）			音を扱う上で必要なデシベルの基礎知識と音の要素を理解する。			
3回	音を録るマイクロフォンについて			マイクロフォンの特性や指向性を理解する。			
4回	マイクレベルとラインレベルとは？			音の信号レベルの違いを理解する。			
5回	音の伝送方法			様々な音の伝送方法を理解する。映像の伝送と音の伝送の違いを理解する。			
6回	コネクタの種類と名称			映像制作の現場で使用されているコネクタやケーブルを覚えそれぞれの特徴を理解する。			
7回	音声用語(1)(技術用語)			放送業界で使用されている、音に係わる技術用語を理解する。楽器の略式記号など。			
8回	音声用語(2)(演出用語)			放送業界で使用されている、音に係わる演出用語を理解する。フェーダー操作など。			
9回	仕込み図・系統図の基礎知識			現場で使用されている、簡易的な仕込み図・系統図を読み解き理解する。			
10回	MAの基礎知識			音の後処理でどのようなことが行われているかを理解する。MAでの演出表現を理解する。			
11回	タイムコードの基礎知識			タイムコードのドロップフレーム・ノンドロップフレームの違いを理解する。			
12回	音声信号のデジタルとアナログについて			アナログ信号とデジタル信号のメリット・デメリットを理解する。			
13回	音声調整卓の基本的役割			ミキサー卓の役割、扱う上での注意点を理解する。			
14回	音声卓への外部接続機器の役割			外部接続機器の役割を理解し、なぜ使用するのかを理解する。			
15回	試験対策			試験へ向けた、音声基礎の総まとめ。			